



おいしいものは好きですか？

第4回 農林水産物直売所のメカニズム

大坪 史人

今回は、私が一番得意な農林水産物直売所（以下、直売所）についてみていきます。

直売所は、1980年代から生産者の高齢化や労働力の弱まりなどから来る規格外品の出荷のために、設立されるようになりました。90年代に入ると食の安全・安心志向の高まりとともに直売所への関心が高まりました。当時の建設省（現国土交通省）が「道の駅」という形態の道路関連施設に対する補助事業を開始した際、地場農産物などを販売する施設が一気に増えることになりました。2000年以降は、直売所の設立数は年々増加し、2015年23,590件へ達しました。全国の直売所の年間販売金額は9,973億円と1兆円規模の産業へと成長しました。

直売所の特徴として、ほとんどが「自都道府県産の農産物」を販売しています。2014年の調査では、全体の約9割が地場生産品目だと言われています。また、「直売所」の名前の通り、農家さんが出したものが直接販売されています。簡単に言えば、農家さんが自分で値段を決め、販売し、売れ残ったら持ち帰るといったのが

一般的な形態です。このため、間に業者が入らない分、費用が掛からないことから農家さんの所得に反映されやすく、消費者からしても安く手に入れることができます。では、どのようにして価格は決まっているのでしょうか。ここからは、私が店長をしていたお店のルールをもとに説明します。価格は直売所において参考単価を提示します。例えば、桃1個が180～220円といった感じです。概ねこの範囲内で値付けをしています。ただし拘束力はありません。農家さんは自分が出荷したものが、他の人の物より品質が良いと思えば隣の農家さんが1個200円で桃を販売しているところ、1,000円で販売することもできるというわけです。逆に半額の1個100円で販売することもできます。しかし、直ぐに売り切れるかもしれませんが、所得も少なくなります。だからこそ、販売価格がモノによって変わってきています。安く、品質のいいものを見つけ出すのも直売所での買い物の醍醐味かもしれません。

＜おおつぼ・ふみと / 和歌山大学 岸和田サテライト
地域連携コーディネーター＞

第104回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

発達障害のある人と関わる中で ～大学生の支援を中心に～

話題提供者 森 麻友子（和歌山大学 障がい学生支援部門 講師）

日時

2018年7月18日 水 19:00～20:30

場所

岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

和歌山大学の発達障害学生の支援の実践をご紹介すると共に、発達障害をもつ人がどのような困難を抱えているのか、また、どのように関わっていくのか、臨床心理士の立場から発達障害のある人と関わることで日々感じることについてお話をしてみたいと思います。

わだい浪切サロンとは？

毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先：和歌山大学岸和田サテライト 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

TEL & FAX：072-433-0875

岸和田サテライト

検索